

令和4年1月7日(金)

生徒の皆さん、あけましておめでとうございます。校長の野澤です。わずかな期間でしたが、どんな冬休みを過ごしましたか。私は大学や国の機関が主催するシンポジウム、研究会などに出席し、例年がない、少々多忙な年末年始を送りました。もちろん、この御時世ですからほとんどがリモートによる開催で、校長室からの参加ではありましたが。

このように、最近では人の集まる行事が減るとともに、対面での打合わせに代えて、電子メールを使うことが本当に多くなりました。皆さんのようなデジタルネイティブと言われる若い世代が、社会に出たとき、実はこの電子メールを適切に使えていないという話は御存じでしょうか。誤解のないように補足しますが、電子メールとラインは別物です。友人や家族と会話を交わすようにやりとりする手段のことではなく、名前のおりデジタルデータによる「手紙」のことです。例えば、受信したメールにはできるだけ早く返信しなければいけませんので、あまり長い文章は避けるというルールがあります。短い時間で書いて、読めて、なおかつ要点が伝わるようにするため、文章には自ずと工夫が求められます。時には箇条書きやナンバリングを、適度に用いることも必要なテクニックでしょう。また、メールを送るときに欠かせないのは「件名」です。これには、メールを開封せずとも要件が一目で伝わり、受信者が優先順位を決められるように、言わば「見出し」としての役割を持たせることが求められます。

以上のわずかな例からもお分かりのことと思いますが、いずれも基本にあるのは国語力です。読む力であり、理解する力であり、表現する力です。私の経験から申し上げますが、こうした力は多くの良質な文章を読むことでしか身に付きません。かつてこの場で、読解力こそAIに対抗できる人間の能力であるとお話ししたことがありました。そのための「朝読書」の時間である、とも申し上げました。いずれは社会人として働く皆さんですが、それを身に付ける勉強をしていますか。そして、適切に電子メールを使いこなす自信がありますか。

電子メールからは国語力が透けて見えますので、失礼ながら、送信者の教養を感じ取ってしまうことがあります。しかも受信者が消去しない限り、そのメールは残り続け、あまつさえ多数の人々に送信者情報とともに転送されるのです。数年後には「大人」とよばれる皆さんが、お粗末なメールを送って低い国語力を拡散することのないよう、今のうちに努力しておくことをお勧めいたします。かしこまったメールを送るような、そんな仕事には就かないよ、と思った方にはさらに申し上げます。仕事以外の、プライベートで一定の人間関係がある人に教養を見透かされる方が、もっと残念な気がするのですがどうでしょうか。

冬休みに入って以降、ウイルスの新しい変異株の影響もあってか、再び感染症の急速な拡大が報道されるようになりました。一人一人が感覚を数か月分巻き戻し、基本に立ち返った感染防止対策をとらなければなりません。毎日の健康観察や手指消毒、マスク着用はもちろん、不要不急の外出自粛などをおろそかにしていませんか。自分自身にもう一度問い直して頂くよう、強くお願いして、始業の挨拶といたします。